

昭和61年開催の第34回市美展で大賞を受賞した本作。何か気になるものがあったのか、子どもが引き寄せられるように窓枠にしがみつき、向こう側をのぞき込む姿を切り取った写真です。

当時審査員を務めた写真家・植田正治は「うまい場を見つけたこと、すごく自然にとらえていること、そして画面構成が凡ではない。例えば窓枠と壁の線の扱い方でもそれは分かると思った」と評価しています。

壁と窓と子どもというシンプルな構成ながら、壁の線をわずかに斜めに捉えることで画面の均衡が崩れ、主役である子どもの自然な姿がより印象的に浮かび上がる作品です。

※本作は、12月7日(日)まで開催中の特別展「植田正治 写真することがとても楽しい」で展示中

◎問い合わせ 市立美術館 ☎25-1447

History exploration |

歴史探訪！

都城に伝わる妖怪伝承

日本各地に現在まで伝わる妖怪や幽霊などの*怪異現象に関する伝承の数々。昔はいろいろを家族で囲み、年長者が子どもたちに地域に伝わる出来事や昔話、怪談などを語り継いでいました。

時代の変化とともにこのような光景は見られなくなりましたが、都城でも終戦ごろまでは各地域や家々にさまざまな伝承が残っていました。

今回は、「都城市史 別編 民俗文化財」に掲載されている民話の一節を紹介します。

～山の麓の霧女～

霧島の東麓には昔から霧女が住むといわれている。色が白く面長の美人で、霧の深い日に必ず一人旅の男性を狙い、寄り添ってくる。男性が話しかけようとする、すぐにその姿を消すという。

近年でも自動車を呼び止めて乗り込み、いつの間にか姿を消し、女が座ったシートはしっとりと濡れていたという話が残る。正体は老いた化けたぬきだという説や、御池町あたりでは白い着物を着た修験者だという説もある。この話は50年代にも噂になり、新聞記事にもなった。

このような口頭伝承も、貴重な民俗文化財の一つです。

※科学的に説明ができない不思議な事象のこと

◎問い合わせ 文化財課 ☎23-9547

「窓」 中村 福志 作 (1986年)



今月の読者プレゼント



※写真は、改装後イメージ

青井岳温泉入浴券 ペア30組

プレゼント提供事業者

ヤマブルー株式会社 (山之口町山之口2123) ☎57-2177

「とろん、とぼん、つるん。」の青井岳温泉が、12月3日(木)にグランドオープンを迎えます。POLA認定「美整リペア温泉」で心も体もモチモチつるんっ。お風呂で一日ゆるりとくつろぐ、新しい温浴体験をしてみませんか。

プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名、電話番号と、11月号を読んだ感想などを書いて〒885-8555まで。
応募者の中から抽選でプレゼントを差し上げます。

- ◎応募締め切り 11月30日(日) 当日消印有効
- ◎当選者発表 本紙1月号
- ◎9月号当選者 まこさん ほか4人
- ◎9月号応募総数 119通

※市公式LINEとお友だちの人は、プレゼントボタンから応募できます

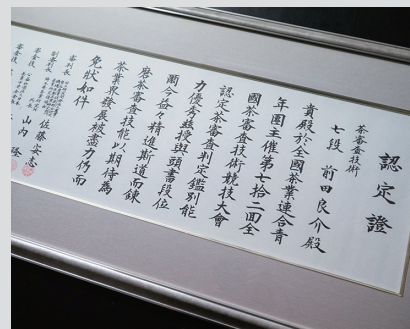
都城をけん引する企業を紹介

企業の力

Vol.62

ちやほさいこうえん
有限会社茶園齊光園

☎22-0337



今年合格した茶審査技術7段の賞状

都城は銘茶の産地。冬と夏、昼と夜の寒暖差が大きい盆地特有の気候が、茶葉に適度なストレスを与え、香り高いお茶を育みます。

この都城の地で、新たに茶審査技術七段の茶師が誕生しました。茶審査技術の資格は、全国茶審査技術競技大会で成績に応じて段位が授与されます。昇段率が非常に低い大会で、最高位の十段になると、全国でも二十数名しかいません。今回、その七段を取得したのが「齊光園」の前田良介代表取締役です。

昭和29年に創業した同社は、都城

および周辺地域で前田代表自らが厳選した茶葉を仕入れ、自社工場で火入れや合組(茶葉をブレンドすること)を行い、うまみを引き出した深蒸し緑茶に仕上げています。約10年前に家業を継いだ前田代表は、都城高専を卒業後、大手電機メーカーを経て培った「ものづくりの精神」をお茶づくりにも込めています。品質への妥協を許さず、日々試行錯誤を重ねながら丁寧な加工作業を徹底することで、飲む人が忙しい日々の中で、ほっと一息つける時間を届けています。

「農作物である茶葉は、毎年味が変わります。まさにお茶は一期一会の飲み物。店によっても味が異なるため、いろいろなお茶屋で飲み比べを楽しんでほしい。お茶の消費量が減少している今、お茶の魅力を伝え、業界を盛り上げていきたい」と語る前田代表の瞳には、産地の未来を担う熱い思いが輝いていました。

お待ちしております／ 読者のお便り

郵便はがきにこの面を貼り付けて、宛名面に次のとおり記載の上、郵送ください。

宛先

郵便番号 885-8555
都城市役所秘書広報課 行
※住所の記載は不要

送付者情報

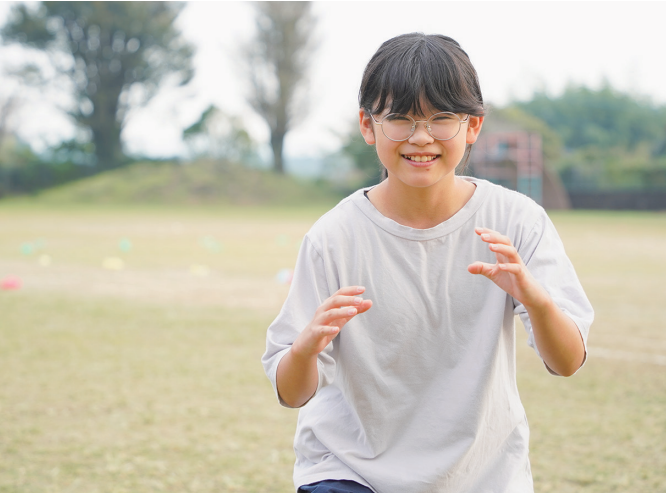
- ①氏名、②フリガナ、
- ③ペンネームまたはイニシャル、
- ④郵便番号、⑤住所、⑥電話番号

点線に沿ってお切りください

私の夢

福田 結希乃さん 木之川内小6年

みんなを元気にする
レスリング選手になりたい



都 城 市 現 住 人 口			
	令和7年10月1日現在	前 月 比	前 年 比
世 帯 数	74,143世帯	51	417
人口総数	159,014人	35	-556
男 性	74,895人	-1	-233
女 性	84,119人	36	-323

※令和2年国勢調査に基づく推計人口



「実る稲穂と彼岸花」(高崎町縄瀬)

編集後記
約10年前に担当していたファミサポ事業。今回の取材で、利用者が増える背景には、支える援助会員や事務局の皆さんの存在があることを改めて感じました。援助会員が増えることでさらに利用しやすくなると良いですね。興味のある人はぜひ。(直)

都城フィロソフィ¹³

◎問い合わせ フィロソフィ推進課 ☎23-7163

第2部 素晴らしい都城市とするために

第1章 一人ひとりが都城市役所

市民目線を貫く

市役所は、市民の幸福や市の発展を実現するために市民サービスを提供する「サービス業」です。市民サービスを提供するに当たって、市役所に来る全ての人の満足を得ることは、非常に難しいことです。

なぜなら、市役所には手続きや相談のためにやむなく来る人がほとんどであり、明るい気持ちを持った人ばかりではないからです。

そのような人に気持ち良く帰ってもらうためには、市民目線を貫き、市民に寄り添った最良のサービスを提供することが必要です。

市民の喜びが私たちの喜びであると考えながら仕事に取り組む必要があります。

届けたい都城の風景

空気が一気に秋めいて、彼岸花が市内各所で満開を迎えた10月初旬。気付けば稲も黄金に色付き、収穫の時を待つばかりの秋の景色が広がっていました。あぜ道でカメラを構え、飛び回るチョウやトンボに秋を感じたのも束の間、最後はミツバチに追いかけてられて、慌てて逃げ帰りました。撮影は暑さ寒さだけでなく、時に虫との戦いでもあります。

【撮影データ】
デジタルカメラ レンズ70～200mm・F2.8、1/250秒 F8 焦点距離155mm ISO100

滋賀県で国スポ・障スポが行われましたが、令和9年の本県開催に向けて、本市でも着々と準備が進んでいるのを感じています。今後もさまざまな機運醸成イベントの様子をお届けしていきますので、皆さんと一緒に気持ちを高めていきましょう！(茉)



ぼんちくんサンタがやってくる！
市内各地のイベントやSNSなどで幅広く活躍している、都城市PRキャラクター兼PR本部長の「ぼんちくん」。
クリスマスの夜、サンタに扮した「ぼんちくんサンタ」が、皆さんの自宅にプレゼントをお届けする大人気企画を今年も実施します。当選した家庭をぼんちくんが訪問し、事前に預かったプレゼントを子どもたち

ぼんちくんサンタがやってくる！

- 日時 12月23日(火)～25日(木) 17時～20時
- 対象 市内在住の子育て世帯
- 定員 6世帯程度 ※応募多数の場合は抽選
- 申込方法 11月30日(日)までに、応募フォームから申し込み

※プレゼントは事前にお預かりします

問 みやこんじょPR課 ☎23-2615



みんなのおうちにあそびに行くのがたのしみでしかたがねど！
たくさんおうぼしっくいやんねー！



に直接手渡しします。
ぼんちくんサンタに当日してほしいことや、希望するメッセージなどのリクエストもできます。ぜひ応募ください。
ぼんちくんサンタと一緒に特別なクリスマスを過ごしてみませんか。

新刊紹介

おすすめ図書 ◎問い合わせ
市立図書館 ☎22-0239
高城図書館 ☎58-4224



うっかり書房
そのだえり(作)、理論社(出版)
ワオキツネザルのワオくんは、うっかり者で本が大好き。家が傾くほど本がいっぱいになってしまったので、本屋さんを開くことに。でもその後もうっかりが続いて…。

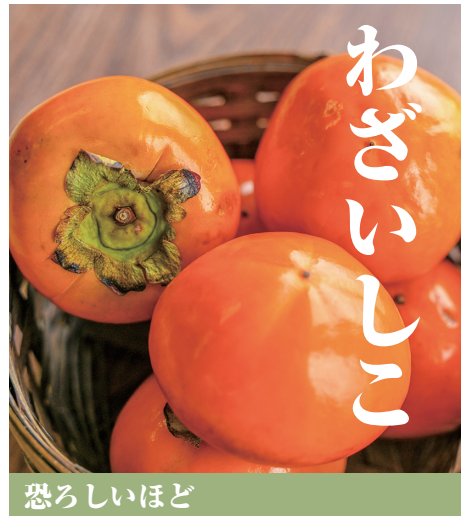


天気のことわざは本当にか
猪熊隆之(著)、ベレ出版(出版)
「ツバメが低く飛ぶと雨」「暑さ寒さも彼岸まで」など、天気に関することわざや言い伝えを山岳気象予報士の著者が分かりやすく解説する一冊。

【市立図書館】 ●休館日／11月10日～14日(蔵書点検)
●開館時間／9:00～21:00

【高城図書館】 ●休館日／11月4日・11日・16日・18日・23日・25日、12月1日・9日
●開館時間／9:30～18:00

今月のみやこんじょ弁



恐ろしいほど

背景
「わざい」は、恐ろしいという意味の「業・災い」が語源で、「しこ」は「ほど・くらい」を意味する。
※方言は市内でも地域や年齢によって異なります
参考文献 瀬戸山計佐儀著「都城さつま方言辞典」

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174